

## シンポジウム「北朝鮮の経済と貿易」報告

聖学院大学 宮 本 悟

北朝鮮の経済と貿易のシステムと現状については、日本では数多くの研究蓄積があるが、しばしば日本社会では誤った認識が広まっている。分野外の研究者やジャーナリストの間でもしばしば誤認している。確かに、北朝鮮の経済や貿易は、外部から見るとなかなか理解しにくいと思われる。

そこで、2021年1月9日（土）に新潟市でシンポジウム兼ウェビナーである「北朝鮮の経済と貿易」を開催した。本シンポジウムでは、北朝鮮経済を専門にしている3名の研究者に北朝鮮の経済状況と貿易について報告してもらった。それに対して分野外の研究者6名からコメントをもらい、より多くの人たちに正確に北朝鮮の経済と貿易のシステムと状況を把握してもらうようにした。コロナ禍にもかかわらず、シンポジウムには9名が参加し、ウェビナーは参加申込者が189名であって、当日参加者が138名であり、盛況であった。

『聖学院大学総合研究所紀要』第67号は、「北朝鮮の経済と貿易」での報告文・コメント文に若干の修正を加えたものである。そのためにシンポジウムの報告順に掲載している。

### セッション1「北朝鮮の経済・貿易システム」

報告文 中川 雅彦（アジア経済研究所主任研究員）

コメント文 池内 恵（東京大学教授）

コメント文 中西 嘉宏（京都大学准教授）

### セッション2「中国との貿易・交流」

報告文 堀田 幸裕（霞山会主任研究員）

コメント文 松田 康博（東京大学教授）

コメント文 山根 健至（福岡女子大学准教授）

### セッション3「ロシアやモンゴル等との貿易・交流」

報告文 三村 光弘（環日本海経済研究所主任研究員）

コメント文 玉田 芳史（京都大学教授）

コメント文 本名 純（立命館大学教授）

北朝鮮は、一般的に流布している国際的に孤立しているというイメージと異なり、他の地域の多くの国々と関係がある。そのため、まず北朝鮮がどのような経済システムを持ち、貿易をどのように営んでいるのかを知る必要がある。本シンポジウムの目的はそこにあった。

ただし、それは北朝鮮の対外関係の一部でしかないことも理解する必要がある。貿易額の多少が友好関係と必ずしも比例しているわけではない。例えば、日本の最大の貿易国は最近では中国であるが、安全保障上ではアメリカが同盟国である。それと同じように、北朝鮮も貿易相手国と安全保障上の友好国が異なることも心に留める必要がある。それは、まだ部分的にしか知られていない。これからの研究で明らかになっていくことである。